

# 埼玉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

今、私たちができること

上藤沢中学校 三年 中田 拓夢

私たちの生活には病院で治療をした時の治療費の補助や事件や事故が起きた時にすぐに駆けつけてくれる消防車、救急車、パトカーの設備費、最近だと新型コロナウイルス感染拡大防止のための無料のマスク配布やワクチン接種の費用など、至るところに税金が使われている。そんな税金によって成り立っている社会の中で、私は国の支出と収入に少し危ない面があるのではないかと考える。

まず私が思う支出の面での危険なところは年金を受給したり、生活保護を受ける方への費用などを含めた社会保障費と国の借金を返すための国債費で支出全体の五割以上を占めてしまっているということだ。確かに社会保障費は大切なことだと思うし、借金があるならしっかりと返さなければいけないと思う。だが、それだけに偏りすぎてしまうのはあまり良くないと思う。最近だと新型コロナウイルスの感染が拡大しているのでアメリカ合衆国のように二度、三度にわたって国民全員に給付金を給付したり、飲食店などに休業や時短の要請をする時の給付金をもっと高額にした方が国民全体の生活が少しは楽になると思うし、北朝鮮が弾道ミサイルを試験発射していることなどで国際的な緊張が高まっているため軍備にももっとお金を使った方が良いのではないかと思う。

次に私が思う収入の面での危険なところは収入の約四割を公債金

という、国が色々な人々から国債という借金をして得ているお金が占めているということだ。この公債金による借金は、国内の人々が稼いだ金額の合計を表すGDPと比べると諸外国の中でも多いことが分かる。財務省によると令和元年度時点でイギリスが約九十パーセント、アメリカ合衆国が約百パーセントに対し日本は約二百四十パーセントと世界の諸外国と比べると日本がいに負担の大きい国債を背負っているのかということが分かる。ではこの問題はどうかすれば良いのか。今すぐに答えを出すのは難しいと思う。最近の日本は新型コロナウイルス感染拡大の影響で支出がとも増えていて公債金が少しでも少なくなれば途端に支出と収入のバランスが崩れ、経済崩壊につながりかねない状況にある。

そのような非常に厳しい世の中で私たちには何ができるのか。それは「学んで考える」ということだと思う。私たち中学生はどうしても自分の意見を発信するということでもっていくのは難しい。しかし学ぶ、考えるということろまではできる。最近では財務省や国税庁のホームページなどの税について学ぶためのツールが非常に多く存在している。学んだら考えることができ、考えることは将来自分の意見を発信することにつながる。将来の日本を生きていき、担っていくかなければならない私たちにとって今のうちから税やこの国の経済について「学んで考える」ということは必須だと思う。